

麗澤・地域連携実習
2021 年度成果報告書

～麗澤・地域連携実習の目的～

麗澤・地域連携実習は、PBL（Project-Based Learning：プロジェクト遂行型学習 または Problem-Based Learning：問題解決型学習）を全学的に推進するために2017年度より始めた取り組みである。PBL型の学びを1年生のうちに体験し、その後の学生自らの発案によるPBLにつなげて行くことを狙ったものである。また、参加者が取り組む課題は、行政や企業が現実として直面している問題であり、その調査や課題解決のために参加者が行う提案の評価を柏市・柏市内企業と大学が連携して行う点に特徴がある。

大学教育の社会的役割が強く問われる時代となって重要視されているのが、自ら問題を発見し、どうすればよいかを考え実践する人材の育成である。日本のように経済的にも文化的にも成熟した社会において、今以上の豊かさや便利さを獲得するには、技術的な面に留まらない広い意味でのイノベーションが必要なためである。そうした人材育成のためには、答えの無い問題について学生自らが考え試行錯誤する機会が必要であり、従来の知識伝達型の教育とは異なるアプローチが必要とされている。

その1つがPBLであり、プロジェクト遂行や問題解決に学生が自ら主体的に取り組むことを通じて、問題発見能力や問題解決能力を育むことを目的としたものである。本学でこれまでにやってきたPBL的な取り組みは、その実施形態から大きく3つに分類される。まず、授業として行われるが、学生が自ら問題設定をし、その内容を考えて担当教員の依頼までを行う自主企画ゼミ、次に授業として行われることは同様であるが、その内容や体制はある程度担当教員がコーディネートする企業・社会実習のような科目、そして授業とは関係がない取り組みであるが、必要に応じて教員が学生のサポートをしたり、大学が費用面での補助をしたりする模擬国連のような取り組みである。

自主企画ゼミのように、学生が自らプロジェクトや問題を設定し、施設や制度、教職員と言った大学のリソースの活用を考え、成果を得るまで能動的に取り組んだPBLは、本当に学生の成長につながる。成長を一言で表現するのは難しいが、目を社会に向け、自分が活躍できる場や貢献できる問題を探し、どうすればよいかを自分で考えて行動できるようになるのである。そうしてまた次の成功体験を獲得し、社会的存在としての自分に自信を深めて社会に出て行くことができる。

しかし、そうしたPBLを自らの発意に基づいて実践できる学生は残念ながら多くはない。大学入学までの通常の学校教育を想定すると、自ら問題設定をしたり、その解決のために学生の方から大学のリソースを使うことを考えたりすることは、あまり簡単なことではないと思われる。授業も学校設備も各種教務サービスも、これまで与えられるものであったわけだから、大学生になったからと言って「さあ、これからは自分で考えましょう」と言われても、多くの学生は戸惑うだけであろう。必要なのは、教職員も大学の設備も望めば自らの意思で活用することができ、自分が取り組みたいプロジェクトや問題解決のための協力が得られることを実感し、自ら発意するPBLにつなげていくための機会である。

以上のような問題意識から、麗澤・地域連携実習は2017年度より学部問わず全ての1年生に対して、1学期から夏休みにかけてPBLを体験する授業として実施された。PBL的な取り組みを体験して小

さくてもよいから成功体験を獲得し、その後の能動的な取り組みにつなげて行くことを主眼とするものである。体験であるから、問題設定や協力が得られる教職員などの大学のリソースといった、PBL に取り組む際のハードルとなる部分はぐっと下げて、大学側がお膳立てをする。この体験を通じて、やることやそのための準備など PBL の全体像を把握するとともに、どの教職員がどういった問題に対応可能か、どういった施設や設備が活用できるかを知ること、自分が発意する場合の PBL をイメージしやすくすることを狙っている。

また、本プログラムの特徴は、行政や企業が現実として直面する問題を取り上げ、その調査や学生の提案の評価を大学と受け入れ先の市町や企業が連携して行う点にある。ヒアリング調査に行くためのアポイントメント取りなどは学生自身がやらなくてはならないし、提案をプレゼンテーションして評価やコメントしてもらうのも受け入れ先である。もちろん担当教員は、学生が考える調査からプレゼンテーションに至る計画や作業項目について指導は行うとともに、トラブル発生やミスを犯した場合のフォローは行うが、実際に学生が成果を得るために働きかける相手は受け入れ先である。高校を卒業したばかりの 1 年生にとって、学外の方の協力を取り付けることは初めての体験である場合が多く、容易ではないことが予想されるが、それが出来るということを大学生生活の早い段階で経験しておくことは重要である。大学における学びは、社会に目を向けて、自分がそこでいかに生きて行くかを想定し、自らがコーディネートしなければならないからである。

このように麗澤・地域連携実習は学外の方々に学生の調査などにご協力いただいて成立するプログラムであるが、2021 年度もコロナ問題が継続しており、学生がヒアリング調査にうかがったり、学生のプレゼンテーションへのフィードバックをいただいたりすることが、対面では困難な場合もあった。しかし、こうした状況だからこそ、オンラインを活用してこれまで通りの実習を行うことに意味があると私たちは考えた。アフターコロナにおいても、調査やグループワークにおいてオンラインを効果的に使うことは、これからの学生にとって必要なスキルとなるからである。

オンラインでのご協力を前提としながらも、2021 年度は柏市から 5 課題、柏市内企業 5 社からそれぞれ 1 つの課題をご提示いただいた。また、オンラインを活用しての実習への学生の意欲も高く、例年履修者は 50 名程度であるのに対して、2021 年度は 79 名の履修希望があった。これらの履修希望者を、グループワークが可能なように課題への割り振りを行った結果、目次に掲げる 10 の課題への取り組みが行われた。本成果報告書は、各課題に取り組んだ学生が、そのプロセスと成果について課題ごとにまとめたものである。

本授業は柏市・柏市内企業 5 社の多大なご協力があって、はじめて実現可能となった。特に、2021 年度はオンラインも含めた対応をお願いしており、その準備や学生とのやり取りに例年以上のご負担をお掛けした。ただ、多忙な職務の合間をぬって、学生の調査や提案の評価などにご尽力いただけたことは、実に得難いことであった。こうした献身的な取り組みがあってこそ、地域と大学とが連携して人材育成に取り組むことを実践することができた。ご協力に深く感謝申し上げたい。また、柏市協働推進課には、柏市の多様な部局と大学との窓口を一手にお引き受けいただき、各部局との調整などに多大な労力を割いていただいた。末筆ながら、ここに感謝の意を表したい。

2022 年 3 月

目次

1. コロナ後のまちのにぎわい回復について…………… - 4 -
担当部局：柏市商工振興課
2. 自殺予防対策事業『若者の自殺予防を考える』…………… - 11 -
担当部局：柏市福祉政策課
3. かしわこそだてハンドブック R3・4年度版のやさしい日本語
（或いは外国版）の調査・作成…………… - 19 -
担当部局：柏市子育て支援課
4. カシワワカモノプロジェクト…………… - 22 -
担当部局：柏市協働推進課
5. 「良い英会話教室」を定義し、社会に受け入れてもらう価値創造事業
…………… - 25 -
企業名：レイズ イングリッシュ インスティテュート
6. SNSを活用した集客方法＋メニュー開発…………… - 33 -
担当部局：PATH TRAVEL & EATS
7. イオンモール柏を中心とした柏市の環境課題解決策～カシワ制度に着目して～
…………… - 40 -
企業名：イオンモール柏
8. 認知度向上の為の効果的な宣伝…………… - 48 -
企業名：グランパークホテル ザ・ルクソー南柏
9. 三方よし x SDGs の廃校再生プロジェクト…………… - 51 -
担当部局：麗澤校友会

コロナ後のまちのにぎわい回復

担当部局：柏市商工振興課

企業名：柏市商工振興課

経済学部経済学科（1年）

環境・地域創生専攻	山上 寛太※グループリーダー
環境・地域創生専攻	佐怒賀 有希
環境・地域創生専攻	椎野 智嵩
環境・地域創生専攻	横田 歩武
経済専攻	桐生 大夢
経済専攻	宮武 数磨
スポーツビジネス専攻	工藤 大和
スポーツビジネス専攻	二川 健伸

○アドバイザー

国際学部国際学科（2年）

国際交流・国際協力専攻 村田 颯馬

担当教員 大越 利之（経済学部）

1. プロセス

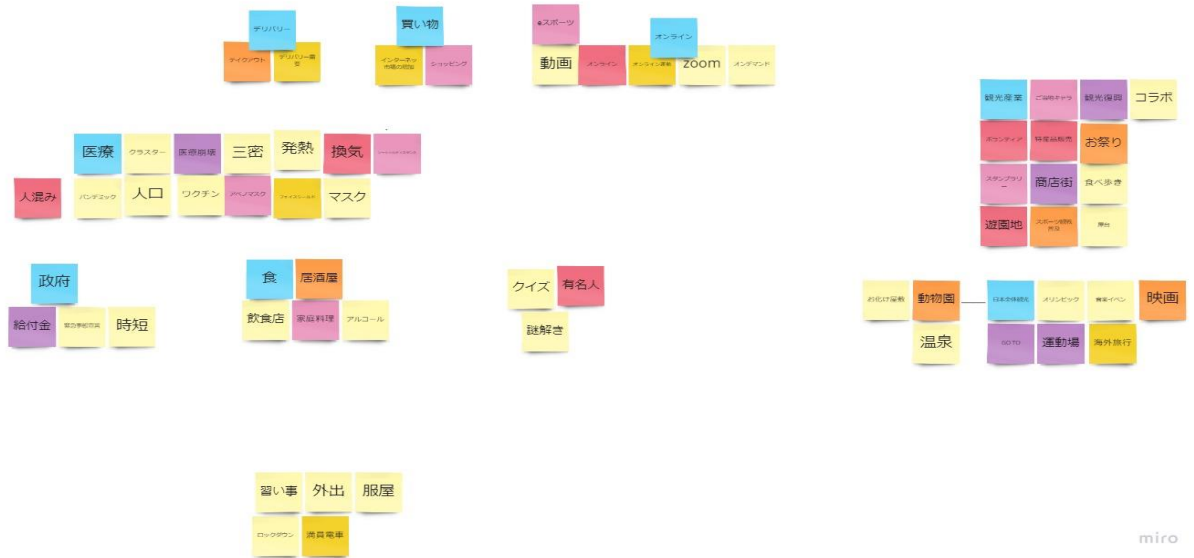
日程	内容
11月8日	第1回グループワーク ・顔合わせ ・自己紹介
11月15日	第2回ミーティング ・ブレンストーミング
11月23日～12月20日 毎週月曜日（昼休み）	定期ミーティング
12月24日	柏市への取材
1月17日～1月31日	プレゼンのスライド作成 内容の方向性の決定
2月1日 14:00～15:00	事前打ち合わせ プレゼンの予行練習
2月1日 15:00～	柏市へのプレゼンテーション
2月3日	全体報告会

2. テーマの概要

私たちは、柏市商工振興課さんからいただいた「コロナ後のまちのにぎわい回復」という課題テーマについて、先入観を省き自由なアイデアを出すことを目的に、まず2つのグループに分かれてKJ法とブレンストーミングを利用し、最終的な提案内容と柏市商工振興課さんへの取材項目について議論した（図1）。その後、取材のアポイントメント係を決め、取材に臨んだ。取材では、主に以下の項目について質問。

- 1 柏市の人口の変化について
- 2 駅周辺以外での交通手段について
- 3 車の所持率
- 4 柏駅の利用率
- 5 市運営の駐輪場の利用率
- 6 コロナ前後の街の変化
- 7 柏市内の人気の場所
- 8 柏駅周辺の人の流れ
- 9 各年齢層からの市の政策への要望
- 10 GO TO キャンペーンの商業側の利用率
- 11 柏駅周辺で思い描く街の賑わい
- 12 ウォーカブル推進都市としての考え方
- 13 駅前とロードサイドのあり方について
- 14 市から私たちへのリクエスト

図1. オンラインホワイトボード「MIRO」を用いたブレインストーミングおよびKJ法
(グループ1)



(グループ2)



3. ヒアリング調査

12月24日、柏市役所の商工振興課さんに取材しに行った。前述の質問により以下のことが分かった。

- 1 コロナの影響により柏駅の利用数及び柏市中心街の歩行者通行量が減少
- 2 駐輪場の利用状況
- 3 年代別の平日、休日の通行量
- 4 令和7年から人口が減少すると予測されている
- 5 go to キャンペーンの効果
- 6 柏市北部、柏駅前、高柳駅周辺の人口が増加している
- 7 柏市の商店街に活性化事業補助を行っている
- 8 柏市では以前ユルベルトという食べ歩きイベントを開催した

取材によってコロナの影響による通行量の減少、令和7年から始まると予想される人口減少、駐輪場の利用状況など柏市とその周辺の状況について知ることができた。

また、上記の他に市のご担当の方が最も考えてほしいこととして、「様々な人が柏に足を運んでもらえるようにしてほしい」というリクエストをいただいた。

取材後には、まちなかに人をどのようにして集めるか、市内在住者および市街在住者の訪問先への違いなどに着目し、提案内容を考えた。

図2. 柏市役所への取材の様子



4. フィールドワーク

(1) 柏の葉キャンパス

1つのグループは柏の葉キャンパスの周辺を観察し、以下のような提案を考えた。

1. 柏の葉キャンパス駅前と県立柏の葉公園を結ぶルート改善
2. 文科系の建物が少ない印象
3. 駅前のレンタサイクルの有効活用
4. 駅前のイルミネーションが綺麗
5. “T-SITE”や“柏の葉アクアテラス”を盛り上げたい

図3.柏の葉周辺の様子



(2) 柏駅周辺

もう1つのグループは柏駅周辺に飲食店、特にラーメン店が多いことに着目し、ラーメンに関するイベント企画を着想した。

5. 提案内容

(1) 柏駅前広場でのラーメンイベントの開催

○選んだ理由

柏駅周辺を選んだ理由として「アクセスに便利」「気軽に立ち寄れる」「若者の人流が盛ん」の3つの観点から選んだ。アクセスに便利であることは他の市から人を集めやすく、市をにぎやかにしてくれると考えていた。

○内容

- ・柏駅前広場にて土休日に開催
- ・駅周辺のラーメン屋を集める
- ・商品券の利用によるリピーター獲得
- ・お客さんのSNSの活用による知名度、集客力の増加

・このイベントの横で柏市の名産品や文化の展示などを行い柏市の知名度を上げる

(2) レンタサイクルで新しい柏の葉めぐり

○選んだ理由

取材時にいただいた市内街というキーワードをもとに柏の葉キャンパス駅周辺を選んだ。柏の葉には医療やショッピング、公園、居住スペースなどあらゆるものがそろっていた。柏の葉に見学しに行った際レンタサイクルに焦点を当てて考えた。

○内容

柏市が2017年3月まで行っていたかしわスマートサイクルという事業を基盤にしつつ、改善点を今だからできるアプローチで変化させ、新たなビジネスモデルを生み出す。柏の葉公園と柏の葉キャンパス駅をつなぐ新たな移動手段になると予想。

○レンタサイクルの需要を高める3つの取り組み

① 柏の葉の飲食店と連携

T-site 指定の店舗で商品を一定額購入して下さった方にレンタサイクルの割引券、レンタサイクルを利用した方に T-site のクーポンを配布する。

② 設置場所の限定自転車の数を増やす

設置場所を柏の葉キャンパス駅第1駐輪場に限定する。オートロックポートに限定する。(トーマス株式会社に協力を依頼) バリエーションにとんだ車種を準備する。

③ SNS の活用

Instagram、tiktok を中心に宣伝する。

Instagram は20代、30代をターゲットにし、「家族でお得に遊べる」をアピール。Tiktok は10代、20代の学生をターゲットにし、自転車の豊富さ、手軽さ、お手頃な値段を大きくアピールする。

(3) プレゼンテーションに至らなかった提案

上記の提案の他に、今回のプレゼンまでに具体的な意見がまとまらず終わってしまったものを紹介する。

○柏の葉アクアテラスの年間活用

- ・ビニールハウス(例)を設置→冬季の寒さでも日差しの良いビニールハウス
- ・夏季は折りたたむことができるコンパクト性→景観を損ねずに楽しむことができる。

○千葉県と連携したイベントの誘致

- ・千葉県や柏市の特産品販売、駐車場の活用

6. フィードバック

プレゼン終了後、柏市商工振興課さんからコメントをいただいた後、自分たちでもプレゼンの反省をした

結果、以下のような意見が出た。

(1) 良かった点

- ・飲食店と連携した企画
- ・今まで柏市になかったイベントを企画したこと
- ・自転車の種類を増やすという提案

(2) 改善点

- ・イベントの情報を具体的にどのように発信していくか。
- ・柏市も商工振興課でレンタサイクルをやっているが、利用者が年間約 5,000 人と伸び悩んでいること

(3) 今後の課題

今までにない新しいイベントの企画は面白かったが、有効な情報発信の方法や、どのようにしてレンタサイクルを利用してもらうのか考える必要がある。

7. 感想・まとめ

今回の麗澤地域連携実習では外部の方に向けて自分たちの考えたものを提案するというとても貴重な体験をすることができてよかった。ただ、具体的にどのような案を出すのか考えるのがとても難しく、自分の案を出すのが難しかった。

全体成果報告会では、他のグループのプレゼンに実際に開催することになった企画があったり、動画を自分たちで作成しているなどとても驚いた。自分たちのグループの案に活用できそうな考えがあって参考になった。

今回の実習では、グループのメンバー全員でそれぞれ意見を出し合っってプレゼン内容を考えることができたと思う。しかし、定期的に行っていたミーティング以外での連携があまりとれなかったように思った。このような経験は次の機会に生かしていけるようにしたい。

8. 成果物

①成果報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/1557RM-OXEhnotZI0Efd0Kz0wuzjL73cE/view?usp=sharing>



②柏市への提案資料

<https://drive.google.com/file/d/1TXbY1yuiVuOayg0rK-toZNXomt0LAIK/view?usp=sharing>



若者の自殺予防を考える

担当部局：柏市福祉政策課

外国語学部

大野 起瑠（外国語学部外国語学科英語コミュニケーション専攻）

経済学部

大羽 萌（経済学部経済学科観光・地域創生専攻）

鈴木 龍星（経済学部経営学科スポーツビジネス専攻）

小林 丈留（経済学部経営学科スポーツビジネス専攻）

木本 凌（経済学部経営学科経営専攻）

田村 彩乃（経済学部経済学科観光・地域創生専攻）

廣瀬 啓伍（経済学部経営学科スポーツビジネス専攻）

橋本 八朔（経済学部経済学科経済専攻）

国際学部

佐藤 こころ（国際学部国際学科国際交流・国際協力専攻）

担当教員 内尾 太一（国際学部）

1. プロセス

日程	内容
11月8日	第1回ミーティング 顔合わせ、スケジュール確認
11月15日	全体ミーティング 昨年度の反省と方向性決め、聞き取り調査班決め
11月29日	第2回ミーティング 質問内容の決定
12月3日	NPO 法人とうかつ生と死を考える会三井さんインタビュー
12月8日	学生相談室吉原さんインタビュー
12月9日	柏市福祉政策課吉田さん他インタビュー
12月13日	第3回ミーティング インタビュー内容の共有、私たちに何ができるか
1月10日	第4回ミーティング 私たちに何ができるか、具体的方向性決め
1月24日	第5回ミーティング 各班にて作業開始
1月31日	第6回ミーティング プレゼンテーション内容の作成
2月3日	全体報告会

2. テーマの概要

今回の実習の目的は、若者の自殺予防について、柏市の現状と取り組みを学び、学生の目線からの具体的なアイデアを提案することである。

そのために、以下の二つについて実習を通じて深く考えることにした。

1. **自殺しない、させないためには？**
2. **ゲートキーパーの当事者意識をもつ。**
3. **自殺は何故増えるのか、減らないのか**

3. (ヒアリング調査)

9名の履修者がいたため、「NPO 法人とうかつ生と死を考える会」、「麗澤大学学生相談室」、「柏市福祉政策課」それぞれ3班に分かれてヒアリング調査を実施した。

NPO とうかつ生と死を考える会 三井さん インタビュー

担当：小林、廣瀬、大羽

<NPO の活動について>

三井さんが NPO の生と死を考える会の活動をしようと思ったきっかけは、学生の頃から人間学に興味があり当時、麗澤大学の水野先生のゼミで人間学を学んでいたことだった。卒業後も水野先生の NPO の講演会などの参加や、前の職場である医療福祉の介護の仕事の現場で死に近い人々と関わりがある

環境にいたことから今の活動につながった。

<グリーフケアの活動について>

グリーフケアとは、遺族が感じている深い悲しみなどの深刻な心の状態の回復のサポートをすることを意味する。相談を受ける人は奥さんや旦那さん、親御さんをなくされた方が多い。相談を受ける際にアドバイスや自分の価値観を押し付けるようなことをせず傾聴をメインとするようにする事に気をつけている。グリーフケアの活動はグループで行い、似ている境遇の方々、同じ想いを抱えている方々と話し合うことで気持ちを思案できる。また、小学生を対象とする子どもグリーフの活動についてもお話を聞くことができた。子供達は大人と違い言葉で発散することが難しいため一緒に遊んだりする活動をして悲しみを発散できるような活動をしている。

<スクールソーシャルワーカーについて>

自殺の原因として、いじめは意外に少ないという。しかし、その中では小学生ならば、親子関係、中学生ならば学業不振、親子関係、高校生ならば学業不振、うつ病、が関連する傾向にある。傾向として若者の自殺は女性より男性が多い（倍くらいの差がある）。考えられる理由としては、女性は相談事などを言葉に出すことが多く、男性は言葉にして吐き出すことが少ないためである。しかし近年（2019年、コロナの時期から）増加の比率は中高生の女性が多くなっている。コロナの影響として人との関わりが薄れたことや進路への不安など元々潜在していた思いがコロナ禍の状況によって出やすくなったとも推測される。統計によると日本は世界的に見ても自殺が多い。実際、若者の死因は事故や病気よりも自殺の割合が高くなっているという。

麗澤大学学生相談室 吉原さん インタビュー

担当：木本、田村、鈴木

12月8日に実施した学生相談室の吉原啓さんへのインタビューを実施した。主な内容は下記の通りである。

- ・カウンセリングの際に意識していること、気を付けていること
- ・今回のテーマのような内容で相談に来た生徒はいるか
- ・他人に相談できる人物とはどのような人物か

まず一つ目の内容からだが、これは今回の実習のテーマに則した相談の場合におけるものである。これについて、死にたい、という気持ちは否定しないが実行しようとするならば行動は止める、相手がわかっていることは言わない、他のカウンセラーの方との情報共有の三点が挙げられた。内容が内容のため慎重な言葉選びを要し、自分一人で抱え込むには難しいものである。故に発言に注意すること、そしてカウンセリングの内容について他のカウンセラーの方に伝え、相談することを意識している、とのことだった。

二つ目については、教員等の第三者が生徒の状態を懸念して連れてくることなら、ないわけではないらしい。だが、死にたい、といった内容で相談に来る人はほとんどいないとのことだ。話の中でそういった内容が浮上することはあるようで、例えば学生相談室の側から、そういった気持ちがあるのでは？という問いかけをすることもあるそうだ。自分からは話しにくい、それとなく促されることで話しやすくなることもある。そういった配慮や工夫を心掛けている、とのことであった。

三つ目の質問に関しては、相談に乗ってくれる人が周りにいた経験がある人は相談しやすい、逆に相談したいときに周りが話を聞いてくれなければ話す気を失い、その経験をしてしまえば相談はしにくくなる、ということであった。やはり、過去の経験は良くも悪くも未来へと影響を及ぼすというわけである。

最後にインタビュー調査を経ての所感とするが、やはり相手の話しに確りと耳を傾けて、決して他人事だと切って捨てないことが大事になってくるだろう。ゲートキーパーという役割を担うとするならば尚更である。まずは何よりも、悩みを抱えた人物から心を開いてもらう必要があるからだ。普段から他人に親身になって接し、良好な人物像というものを確立させていく、そういったことが周囲からの信頼を得るための礎となる。そのためにも、相手の話を聴き、蔑ろにしないことが大切なのである。

柏市福祉政策課 職員の方々へのインタビュー

担当：橋本、佐藤、大野

12月9日にグループで柏市役所を訪問した。このインタビューでは、橋本、佐藤、大野の3人で市役所の方々のお話を伺い、その後質問でお聞きする進め方で全体として約1時間のインタビューを行った。

柏市役所福祉政策課では自作対策事業に限らず、様々な仕事がありその中で自作対策への取り組みを行っている。そのためもう少し自殺対策へ時間を使いたいという思いがあるようであった。また、昨年5月から自殺対策コーディネーターという役職を置き自殺対策に特化した内容に取り組んでいる。具体的な内容は、その日によって異なるようで毎朝タスクを決めてお仕事をされている。特に衝撃的だったのは自殺対策コーディネーターとして勤務されている方に悠々ホルンさんというシンガーソングライターとしても活動し、自殺に関する相談を過去10年間で7,000～8,000件受けた経験のある方がいらした。このようなコーディネーターの存在等もあり柏市は全国的に見てトップレベルで自殺対策が進んでいるということだった。柏市役所では相談窓口の設置、各種イベントの開催、ツイッター等を利用した活動など様々な取り組みを行っている。

日々最前線で活動されている市役所の方々の見解として、自殺者のおよそ7割はあらゆる窓口等に相談ができていない状況であり、相談がしやすい体制づくりを考えているとのことだった。また、自殺に至る原因は、家庭内の事情、金銭面、病気などそれぞれ大きく異なるため自殺対策としてターゲットを絞り込み動いていくというのは難しいようであった。そのためにも私たちが実践できるゲートキーパーの大切さを改めて感じられた。

4. (提案内容)

とうかつ生と死を考える会、学生相談室、そして柏市福祉政策課へのインタビューに基づき、私たちは若者の自殺予防に貢献する具体的なアイデアの検討を始めた。そして、自殺予防を呼びかけるホームページ、ポスター、動画を制作することを決定した。

ホームページ班 (大野、橋本、田村)

各それぞれのヒアリング調査の結果、わたしたちにできる自殺予防として自殺志願者の周りの人間(ゲートキーパー)の存在が大切であることが分かった。しかし私たち 9 人の履修生がゲートキーパーの重要性を理解したことだけで自殺対策になるわけではなく、大学のみならず一人でも多くの人々が重要性を認識してもらうことで自殺対策として効果が出てくると考えた。また、実際に自殺者のおよそ 7 割が市役所などの相談機関へ相談できずに無くなっているという現状で、相談窓口の存在をさらに知ってもらい、自殺に関する相談機関やゲートキーパーの重要性を広めることが必要だと考え、それらの情報を集約したウェブサイトを作成した。ポスター班と動画班とも連携しそれらの成果物もウェブサイト内で後悔している。また、このウェブサイトは誰でも閲覧することができ、さまざまな人に見てもらうことで最終的に自殺対策となることを期待している。

ポスター班 (小林、鈴木、大羽)

小林、鈴木、大羽の 3 人でポスターを制作した。このポスターは、ゲートキーパーの存在と役割を多くの方に知ってもらうことを目的としている。内容は、ゲートキーパーの 4 つの役割とホームページの QR コードを貼り付け、ポスターに描ききれない点をホームページで見ってもらう仕組みとなっている。このポスターは大学に掲示した。

5. (連携先からのフィードバック)

デスカフェに参加して頂いたゲストの 3 人に、オンラインでこの企画を中心に今回の実習についてのコメントを頂いた。

三井さん (NPO 法人とうかつ生と死を考える会)

各関係機関のインタビューから、若者の自殺対策について、今現実に学生さん自身にできることに焦点を当てた研究であると感じました。それは相談をもちかけられた人、つまりゲートキーパーについて知ってもらうこと、そしてそのゲートキーパーはどんな心得をもっておくべきかということだと思います。相談をもちかけられた人の対応の仕方によっても、自殺予防について大きな影響与えると思いますので、学生さんへの周知に繋がればと願います。これを機にさらに自殺や生と死について広く知見を持っていただければ幸いです。大変お疲れさまでした。

吉原さん（麗澤大学学生相談室）

自殺予防においては、人とのつながりが大切だと考えております。学生相談室としても様々な方法で広報を行っていますが、まだまだ敷居が高い所があると思います。今回のインタビューを通して、学生相談室でのカウンセリングについて知ってもらい、皆さんがゲートキーパーとして学生相談室に気がかりな友人を紹介してくれると、私たちとしても本当に助かります。私たち教職員だけでなく、学生の皆さんの力も借りつつ、地域のサポート資源を活用してもらうことによって、学生の命を守っていけたらと思っています。今回の活動を通して、ゲートキーパーの輪が広がっていくことを願っています。

柏市市役所福祉政策課の皆様

【ホームページ】

貴大学の学生自らで発信されることに意味があります。インターネット上には無数の情報が点在します。どんなに有益な情報もたどり着かなければ活かされません。必要な情報を抽出しまとめて発信することは、とても重要な情報発信だと思いました。動物のアイコンを使用されたところなど、人への怖さをお持ちの方もいますので、とても良い選択ではないかと感じました。メニューの項目を英字表記にしてあったりとデザインもカッコよくて(こういったこともとても重要だと考えています)良いと思います。

【ポスター】

「気づき」「声かけ」「傾聴」「専門家につなぐ」の重要な4点がパッと目に入りました。一瞬で大事な情報を受け取れる発信は素晴らしいと思います。さらに、画像の選択や配色など、多くの方がこちらのポスターを通じて心地よくメッセージを受け取れるのではないのでしょうか。今後福祉政策課で企画している自殺予防イベントにて掲示を行うなど、もしよろしければ検討させていただけたらと思います。

【動画】

ドラマ仕立てですととても分かりやすかったです。「SNSの投稿に誹謗中傷を書かれた」という多くの方(特に若い世代)が身近に感じられる内容にされたのも素晴らしいと思いました。「自殺」といったワードだとなかなか「自分ごと」として捉えられない方もいますので、身近な話題に落とし込んで伝えることは多くの方が「自分ごと」として関心を持つキッカケになるはずで、繰り返し拝見したいと思います。

6. 感想・まとめ

大野 起瑠（外国語学部外国語学科英語コミュニケーション専攻）

自分の日常の中では自殺というのはとても遠い存在であり、ぜひこの機会に学びたく思い履修をしました。それぞれの機関へインタビューをし、活動を進めていく中で自殺を予防するということがどれだけ難しいのかを知ることができました。正直、地域連携実習という限られた範囲、期間で自殺対策を具体的に考えて実践するのはとても難しく今回の成果物も満足はできていません。今回の活動を機にこの実習以上の大きなアクションを起こせるようこの実習後も勉強していこうと思います。また、お忙しい中インタビューの時間を割いて頂いた方々にこの場をお借りしてお礼をお申し上げます。最後に、直接ではあり

ませんがこの活動を通して一人でも多くの命が救われることを心から願っています。

鈴木 龍星（経済学部経営学科スポーツビジネス専攻）

今回自殺と言う重いテーマでしたが、メンバー達と楽しく話し合えました。また、自分には無縁のことと思っ
ていましたが、自分以外の誰かがそう思っていたらと思うと、意外と他人事ではないなとも思えるいい機
会でした。

小林 丈留（経済学部経営学科スポーツビジネス専攻）

今回の自殺予防の活動を通して、自殺の原因について考える機会ができました。いじめが原因で自殺
する人は思ったより少なく、進路の悩みや親子関係が主な理由だと分かりました。若者の自殺を予防
するためには、何よりも親の存在が大きいのだと思いました。いじめにあった時に親に相談できない、進
路の不安を親に相談できない。子供にとって一番の理解者であるはずの親に相談できないような環境
が、若者の自殺を引き起こしてしまうのではないかと思います。この活動で得た知識、経験を誰かの
命を救うことにつなげていきたいと思います。

木本 凌（経済学部経営学科経営専攻）

今回、この地域連携実習を通して感じたことがある。それは、グループ単位での活動の難しさである。メ
ンバー間での都合をつけ話し合い、それぞれの役割を全うし、期限内に一つの成果を挙げる。簡単に
言えばこれだけだが、実際はそう単純なものでもない。事が順風満帆に運ばれることなどそうそうなく、複
数人いるからこそその進めにくさというものもあった。だからこそ、一つ一つ物事を達成する度に得られる満
足感等は非常に気分が高揚するものでもある。今後、このような機会は頻繁にあるものとする。是非
今回の実習の経験を活かし、満足のいく結果を生み出せるよう努めていきたい。

田村 彩乃（経済学部経済学科観光・地域創生専攻）

「自殺」というセンシティブな内容を学生相談室・NPO 法人・市役所の方々からお話をお聞きできたこ
とはとても貴重な体験でした。そして私たち実習メンバーは、既にゲートキーパーだと思えます。周りに辛
い思いをしていて、もし自ら死を選ぼうとしている子がいたら、手を差し伸べてあげられる、その子のゲ
ートキーパーになってあげられる。この実習を通し、その大事な役割を果たすことが出来るかもしれないと
思いました。

橋本 八朔（経済学部経済学科経済専攻）

元々社会問題や行政・政治といったものに興味があったため、この実習の受講を決めたが、当初想像
していた以上に様々なものを学ぶことができ感動していると同時に、若者の自殺問題の深刻さも実
感した。1 人の若者として、若者の自殺問題に真摯に取り組む方々と直接話し合い、更にそれによ
って得られた気づきを成果物としてフィードバックする機会を得られたことは、忘れられない経験になった。
これからの人生にこの経験を活かして、よりよい社会の建設・発展に尽力したい。

佐藤 ころ (国際学部国際学科国際交流・国際協力専攻)

「若者の自殺予防」という重い話題についてニュースなどを見て軽く考えることはあっても、ここまで真剣に考え、自分たちに出来ることを探すというのは初めての事だったので大変でした。しかし今の若者の自殺の現状やゲートキーパーの役割、また環境の重要性について学ぶことが出来ました。自殺を 0 に近づけるために出来ること、これははっきりとした答えの無いものですが、これからも時間を作って考えてみたいです。

7. 成果物

①麗澤大学若者の自殺予防班特設ウェブサイト (動画やポスターも紹介している)

<https://reitakuzisatutaisa.wixsite.com/my-site>



②成果報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/1TXbY1yuiVuOayg0rK-toZNXomt0LAIK/view?usp=sharing>



**「かしわ子育てハンドブック」
(R3,4 年度版のやさしい日本語
或いは外国語版の調査・作成)**

担当部局：柏市役所子育て支援課

経済学部

- 1) 小倉碧
- 2) 片岡育美

国際学部

- 1) 土田明日香
- 2) 杉田汐里
- 3) 山田智樹

指導教員

国際学部国際学科 松島正明

1. プロセス

日程	内容
11月9日(火) 12:15	第1回打合せ ○顔合わせ ○ブリーフ(課題の目的、在留外国人の概要等)
11月16日(火) 12:15	第2回打合せ ○今後の進め方等
12月2日(木) 13:30	柏市役所子育て支援課第1回打合せ ○挨拶(自己紹介等) ○市役所ニーズの確認等
12月6日(月)	グループワーク開始 ○柏市国際交流施設訪問、外国人インタビュー等
12月20日(月)	GW進捗状況の確認
2022年1月19日(水)	第3回打合せ ○進捗状況の確認 ○市役所への提案内容等の検討
1月26日(水)	柏市役所子育て支援課第2回打合せ ○GW検討結果等の説明 ○提案内容等に関する市役所コメント等聴取
2月3日(木) 13:00	全体報告会

2. テーマの概要

- 1) 柏市役所が作成・発行する「子育てハンドブック」改訂に関する検討
 - (1) やさしい日本語の活用可能性検討
 - (2) 市在住外国人に伝わりやすい内容等の見直し案検討

3. (ヒアリング調査)

- 1) 学内外国人教員等に対するインタビュー
- 2) 柏市国際交流施設等における外国人に対するインタビュー、ニーズの把握

4. (その他、実習での取り組み。アンケートなど)

- (1) アンケート、インタビューの実施概要
実施期間：2021年12月～2022年1月
取材対象：市内で子育てを行っている外国人、学内の外国人教員
取材方法：インタビュー、アンケート用紙の配布

取材内容：子育てに関するニーズ（ハンドブックの改善に関する要望等）

(2) アンケート分析

- ハンドブックの日本語表記が外国人には分かりづらい
- 日本語・英語併記の方が分かりやすい
- 外国人が希望する情報（英語が通用する医療機関名、場所等）が記載されていない
- 外国人には難解な漢字表記が目立つ
- 地図がなく（日本語版にはあるが）、サービスにアクセスできない など

5. (提案内容)

- 1) 「やさしい日本語」をある程度活用した日本語表記の見直し
- 2) 日本語・英語併記に見直し
- 3) 難解な漢字表記は最小限とし、図や絵（ピクトグラム等）を活用
- 4) 行政サービス内容が外国人に想定しやすくするような工夫（絵、図の活用等）
- 5) ハンドブック改訂案（サンプル）を作成の上、子育て支援課に提案 など

6. (連携先からのフィードバック)

- 市役所が直接在住外国人から話を聞く機会が少ないため、学生が行ったアンケートやインタビューは大変参考になった。
- インタビュー・アンケート分析結果が分かりやすく提示されていた
- ハンドブック改訂版サンプル案が提示され、大いに参考になった
- 学生目線の提案（図、絵の活用等）が具体的に示されており、大変参考になった など

7. 感想・まとめ

- 市内在住外国人が当面する課題がよく分かり、勉強になった。
- 行政サービスを提供する自治体職員の苦労等が分かり、今後の就活等で参考になった
- 多文化共生社会の構築について関心が高まった 等

8. 成果物

最終報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/1wtdQzorY5i5iZbDteDjQwFFQ7wUbd5Bi/view?usp=sharing>



カシワワカモノプロジェクト

担当部局：柏市協働推進課

外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻 加賀美 凜

英語・リベラルアーツ専攻 前嶋 彩音

経済学部経済学科

経済専攻 水野 冴優

グループリーダー なし

担当教員 大野 正英（経済学部）

1. プロセス

日程	内容
12月3日	市役所での協働推進課と初の顔合わせ ・自己紹介 ・ワカモノプロジェクトについて ・今後の方針決め
12月14日	第1回ミーティング ・ブレンストーミング
1月6日	第2回ミーティング ・各案の確認 ・今後の方針決め
1月13日	第3回ミーティング ・プレゼン内容の確認 ・スライド進捗の確認
1月28日	第4回ミーティング (zoom) ・市役所でのプレゼンの進行決め
2月3日	最終確認 ・午後の全体報告会に向けての確認
2月3日	全体報告会
2月7日	市役所でのプレゼンテーション

2. テーマの概要

柏市協働推進課からは次のようなテーマが提示された。

「柏市在住の若者に向けて、柏市についてより知ってもらい、好きになってもらう」

今回の提案は協働推進課だけではなく KIKAI からのものであった。カシワワカモノプロジェクトでは、それに沿って企画案を具体的に提案することが求められた。

3. 柏市協働推進課および KIKAI の担当者からのヒヤリング

ターゲットは18～22歳の大学生や若者がメインで、どのようにターゲットに柏市の事を知ってもらえるか、好きになってもらえるかを意識してほしいとの希望があった。これまでの KIKAI の取組について、柏市協働推進課および麗澤大学の学生で KIKAI の中心で活動していた吉原美憂さんからその概要を伺った。

これまで数年の積み重ねがあって、いろいろな企画が行われてきて、参加者も増えていたが、コロナ禍で完全に活動がストップしてしまい、一からのスタートが求められている。そのため、自由な発想で提案してもらってかまわないということだった。

4. グループでの取り組み

協働推進課からの要望に基づいて各自で持ち帰り企画を考えて、オンラインでのミーティングを中心にして調整を行った。最終的には一つの企画にまとめるのではなく、それぞれが考えた企画をグループで検討したうえで提示することとなった。

5. 提案内容

提案内容としては、柏に在住している若者に柏市についてもっと知ってもらう事、好きになってもらう事が目標となっている。一つ目に sns を利用した柏市についての情報拡散、sns を利用した若者向けのイベントの提案。柏市の情報をより拡散して多くの人に知ってもらう事が目的。

二つ目は起業を考える若者世代のターゲットに向けて実際柏市で起業、営業している人と話を聞けたり交流出来るイベント、より形が軽い形式でのイベントを開き就活生と会社側のコミュニティを作る事が目的。

三つ目に小学校～大学内でサークル活動の発足、柏市の魅力を若者中心に広めていき人脈をつくり、人と人とのふれあいでコミュニティを大切にしていけることが目的。

6. 連携先からのフィードバック

プレゼンテーションの結果としては今後提案をした意見をもとにパレット柏で高校生や多くの人に向けて職業を紹介する場を作りたいという意見をいただきました。できれば今後実際に KIKAI の活動に参加することを求められた。

あらためて KIKAI の担当者との間で意見を交換する機会をもちたいとの要望をいただき、近日中に実施する予定になっている。

7. 感想・まとめ

プロジェクトの感想は加賀美が代表としてまとめさせていただきます。今回のプロジェクトでは市役所の外部の人と共同で参加させていただくのはとても新鮮な内容でした。協働推進課からはあまり縛りがないので是非自由な意見を提案して欲しいと話していただきました。

また、チームが3人だったので協働推進課の期待に応えられる意見を提案できるのだろうか、短期間でうまくまとまるのか不安でした。しかし、各メンバーで特徴のある提案を作ることが出来たので各メンバーがそれぞれプレゼンテーションをする形をとりました。なので、各自で主張した事がはっきりしているので協働推進課にもしっかり伝えられたと思います。協働推進課からも良い反応があり、良いプレゼンテーションが出来たと思います。

8. (成果物)

成果報告会資料



<https://drive.google.com/file/d/1wtdQzorY5i5iZbDteDjQwFFQ7wUbd5Bi/view?usp=sharing>

「良い英会話教室」を定義し、 社会に受け入れてもらう価値創造事業

企業名：レイズ イングリッシュ インスティテュート

外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻

松下 和敬

英語コミュニケーション専攻

渡部 ひとみ

国際学部国際学科

日本学・国際コミュニケーション専攻

三浦彩音

国際交流・国際協力専攻

松丸瞳※ グループリーダー

担当教員 吉田 健一郎（経済学部）

1. プロセス

2021 年

- 10/25 オンラインミーティング・顔合わせ
- 11/1 オンラインミーティング
- 11/5 オンラインミーティング
- 11/8 iFloor での MTG
- 11/10 iFloor での MTG・スライドづくり
- 11/15 鍋木さんとのオンラインミーティング
- 11/18 iFloor での MTG
- 11/22 iFloor での MTG
- 11/29 アクティビティシミュレーション
- 11/19 野村さんとの MTG
- 12/8 吉田先生と MTG
- 12/16 iFloor での MTG
- 12/23 鍋木さんとの MTG

2022 年

- 1/10 iFloor での MTG
- 1/17 iFloor での MTG
- 1/19 鍋木さんとのオンライン MTG
- 1/28 オンラインミーティング
- 1/31 オンラインミーティング
- 2/1 施設予約
- 2/2 鍋木さんとのオンライン MTG
- 2/3 オンラインミーティング
- 2/12 鍋木さんとのオンライン MTG
- 2/14 リハーサル
- 2/22 幼稚園訪問 松下・三浦
- 2/24 幼稚園訪問 三浦・松丸
- 3/24 イベント 1 日目
- 3/25 イベント 2 日目

基本的に iFloor のプロジェクトスタジオでミーティングを行い、必要に応じて、オンラインミーティングを実施しました。本報告書執筆時点（2/23）において、議事録のページ数は 27 頁になり、イベントの企画内容について何度も話し合い、何度も鍋木さんに確認をしてもらい作りこんでいきました。

2. テーマと提案内容

今回、Rays English 代表の鍋木さんからのミッションは「良い英会話教室」を定義し、社会に受け入れてもらう価値創造事業であり、具体的にはこれまでと異なる新たな集客方法の提案と実施です。私たちは、幼稚園年長さん（小学校入学直前の子ども）をターゲットとした小学校への入学準備としての英語サポートを目的としたイベントの企画を考えました。

RaysEnglish さんの理念に合わせて、体を動かして、英語を能動的に学ぶ Color, Fruits, Easter の3つのアクティビティを企画しました（次図参照）。

入学準備に体を動かして英語を学ぼう!!

Active x English

3月24日(木) 14:00~16:15
3月25日(金) 10:00~12:15
場所:高田近隣センター体育館

-COLOR-
☆Color Run!!

-FRUIT-
☆Where Is Fruit?
☆What Fruit Do You Know?

-EASTER-
☆Let's Making EGG!!
☆What Shape Do You Know?

対象年齢：年長
定員：30名

世界に一つだけのEGGを作ろう!

外国語・国際学部所属の大学生(4人)が皆さんの入学準備をプロデュースします!

2. アクティビティの詳細

具体的には「身体を使って英語でフルーツと色について学ぼう！！」をコンセプトとして、英語しか使ってはいけない時間を次のアクティビティを通して、楽しく演出する3つのアクティビティです。

1. 宝(フルーツ)探し 🍎🍌🍊🍇🍑

⇒隠されたフルーツを1人1つ探す(Apple, Banana, Orange, Grape, Peach)

- ① 体育館で、隠されたフルーツを探す
- ② 1つフルーツを見つけたらクリア！
- ③ 上位3人に何かプレゼント！
- ④ 見つけたフルーツのシールを服に貼る
- ⑤ 見つけたフルーツは自分のフルーツになる

宝探しで使う英語表現とその場面

- ① ルール説明の際に、フルーツの名前を学ぶ

【Apple, Banana, Orange, Grape, Peach】

- ② 宝(フルーツ)を見つけたときに、〇〇を見つけた！と言う

【I got 〇〇!】

2. フルーツバスケット 🍎🍌🍊🍇🍑

⇒英語を使って、全員でフルーツバスケットをする

- ①鬼が5つのフルーツの中から、好きなフルーツを言う
- ②自分のフルーツを言われた子供は、立って移動し、座っている椅子とは別の椅子に座る
- ③座れなかった子供が次の鬼となり、鬼はフルーツの名前を言う
- ④鬼がフルーツバスケットと言ったら、全員が移動する

フルーツバスケットで使う英語表現とその場面

- ①ルール説明をしているときにフルーツの名前を復習する
- ②自分が鬼になったときに、フルーツの名前を英語で言う
- ③自分のフルーツの名前を耳で聞く

3. EGG作り

⇒イースターとして、オリジナルEGGを作る

- ①色ペンを使ってEGGにイラストを描く
- ②完成したオリジナルEGGは最後に景品と一緒に持ち帰る

4. 色鬼

⇒色を使って鬼ごっこをする

- ①鬼以外の人が「何の色？」と聞く
- ②鬼は好きな色を言う
- ③鬼は10秒数えて、鬼以外の子を追いかける
- ④鬼以外の子は、言われた色のものにタッチする
- ⑤タッチをされたら鬼を交代する
- ⑥一つの色に複数人タッチは可能or不可能（未定）

色鬼で使う英語表現とその場面

- ①ルール説明をしているときに色の復習をする
- ②鬼が色を言う
- ③鬼以外の人が色を聞く

スケジュール24日（木）と25日（金）

13:00 現地集合・準備

13:40 受付開始

14:00-14:05 挨拶とか

14:05 - 14:20 フルーツ探し

14:25 - 14:50 フルーツバスケット

14:55 - 15:25 EGG作り

15:25 - 15:50 色鬼

15:55 - 16:10 復習・景品・終わりの挨拶とか

16:15 お迎え

(15:55にはお迎えに来てもらう)

9:00 現地集合・準備

9:40 受付開始

10:00-10:05 挨拶とか

10:05 - 10:20 フルーツ探し

10:25 - 10:50 フルーツバスケット

10:55 - 11:25 EGG作り

11:25 - 11:50 色鬼

11:55 - 12:10 復習・景品・終わりの挨拶とか

12:15 お迎え

(11:55にはお迎えに来てもらう)

3. イベント準備

実際に企画提案をして終わりというわけではなく、私たちが企画→集客→運営までを行います。そのため、チラシの作成・印刷、イベントの詳細がわかる Web ページと申込ページ、そして集金方法まで考えました。

○チラシの QR コードからの誘導する集客用の Web ページ

<https://sites.google.com/reitaku.jp/colorfruits/>



[Colorfruitsについて](#)
[イベント開催内容](#)
[申込方法](#)

Colorfruitsについて

みなさんこんにちは！ 麗澤大学学生団体（女子大学生4人）のColorfruitsです！
私たちは、英会話教室 Rays English Instituteさんからのご支援のもと、英語を使用したイベントの開催に向けて、日々活動をしています！



イベント開催内容

イベント名：Active×English

開催日時：2022年3月24日(木)と3月25日(金)



○

○申込ページと決済方法を載せた Web ページ

<https://sites.google.com/reitaku.jp/colorfruits/apply>



3月18日（金）までに、PayPayによる送金が、銀行振り込みのいずれかでご入金をお願いします。
入金して初めてお申し込みが完了となります。

金額 3,000円（税込み）

PayPayによる送金

送金時のメッセージに「お子様のお名前」をご入力くださいようお願いいたします。

送金先へのリンク <https://qr.paypay.ne.jp/R1aBGMm8V53CJEv>

送金先へのQRコード



○

4. 感想・まとめ

(渡部)

案を出すだけでなく、実際に行うということで正直大変でした。イベントの内容も何をやらいいか思いつかなかったのも、皆で小さい頃の記憶を思い出して考えたり、そのアクティビティで何が学べるのか、子供たちが簡単に理解できるか、なども考え悩みに悩んで出しました。また、アクティビティの内容だけでなく、集客方法、参加費の集め方、実施場所などの決める事もたくさんあって、すごく大変だったし時間もかかりました。ですが、なかなか経験できることではなかったので、取り組んで良かったと思っています。そして、リーダーの松丸さんがとても頑張ってくれて、的確な指示もくれて本当に助かりました。ありがとうございました。

(松下)

この活動を通して、私は主に二つのことを学びました。一つ目は仲間と共に意見を出し合って物事を完成させることの面白さを知れたことです。今回のこの活動はチームワークの良さが非常に重要になっていると思いました。お互いに意見を出したり、聞いたりして、一つのことを完成させる経験ができてよかったと感じます。時には案が出ない時もありましたが、それでも先生などから助言をいただいたりして、なんとか達成させようと頑張ることができました。

二つ目は、一つのイベントを開催するということは、簡単そうに見えて実は非常に難しいということです。私は今まで、何かのイベントに参加するという方が多く、このように全てを一から自分たちでやるということではなかったので、いつもイベントを企画している方々は「すごい」と感じました。この経験を通して今後は、チームワークが重要となってくる活動では自分が前に立てるよう頑張っていきたいと思います。

(松丸)

私は、今回グループのリーダーを務めさせていただきました。今までリーダーの経験をあまりしてこなかったため、リーダーを務めることがほぼ初挑戦でした。最初の方は、自分がリーダーで本当によかったのだろうかと思ったりもありませんでしたが、たくさんの人の支えがあり、自信をもって最後までリーダーを務めることができました。そして、一つのイベントを完成させるために、イベント内容の考案、施設予約、幼稚園訪問など、様々な経験をしました。初めて行うことが多く、上手いかわからないこともありましたが、みんなで協力し合い、たくさんの時間をかけて、やるべきことすべてを一つ一つ終わらすことができました。学生時代にしかできない貴重な経験を、今後の活動に生かしていきたいと思います。最後に、今まで支えてくださった、鍋木様、吉田先生、そしてメンバー3人には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(三浦)

最初は、初対面のメンバーと先生と活動をするということで、緊張もあったし、不安もありました。けれど、何度も何度も話し合いや、意見を出し合っていく中でメンバー同士の仲も深められたのではないかなと思います。今では、最初の時の不安だった気持ちは一切なく、活動が楽しいという気持ちに変わっています。これも、メンバー、先生、また鍋木さんのおかげだと思っています。また、イベントを開催するにあたり、電話でのやり取りや、幼稚園への訪問など、普段は体験することの出来ない経験をしました。緊張することもありましたが、いい経験になりました。たくさんの人に支えてもらってできるこの活動。たくさんの人に感謝です。

5. 成果物

成果報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/1bd5Yy1cL2ToEJtz8qTE8mZEPvadtQGQg/view?usp=sharing>



新メニュー開発と SNS を活用したマーケティング

企業名 : **Café Path Travel & Eats**

グループ1. Lemon tea

1214630900	国際学部	増川寛太郎 (グループリーダー)
1214310544	外国語学部	高野仁愛
1214510011	経済学部	藍原雄太
1214510780	経済学部	増田 杏果子
1194310359	外国語学部	喜多村朋世 (上級生サポーター)

グループ2. しもしす

1214610457	国際学部	福田明樹 (グループリーダー)
1214610093	国際学部	大木彩永
1214610176	国際学部	倉持佳歩
1214610390	国際学部	中村ほのか

担当教員 下田 健人 (経済学部)

1. プロセス

日程	内容
1 1月17日	第1回グループワーク ・顔合わせ ・自己紹介
1 1月中	グループ毎に、カフェに出向いて試食。 併せて、飯島社長、竹原店長にインタビュー調査を実施
1 1月24日～1月19日	定期ミーティング ・毎週水曜日の昼休み、BEE 棟会議室にて。
1月22日（土）10時から	1505教室にて、飯島社長、竹原店長をお迎えして、報告会を実施
2月3日	全体報告会

2. テーマの概要

カフェにおける2つのミッション

- (1) SNSを活用したマーケティング（チーム Lemon tea）
- (2) 集客のための改善提案：メニュー及び内装（チーム しもしす）

グループ毎に上記の個々のミッションについて調査、検討し、アイデアを提案する。

3. （ヒアリング調査）

グループ毎に、適宜飯島社長、竹原店長にヒアリング調査を実施（2021年11月～12月）

4. （その他、実習での取り組み。アンケートなど）

- (1) カフェの公式Instagramを19日間運営（チーム Lemon tea）

- ・写真の撮り方を工夫する。
- ・投稿がきれいにみえるように文面に統一性を持たせる。
- ・有名店の投稿を参考にして絵文字を増やす。

- (2) アンケートの実施概要（チーム しもしす）

実施期間：2021年11月～12月

取材対象：高校生、大学生

取材方法：SNS

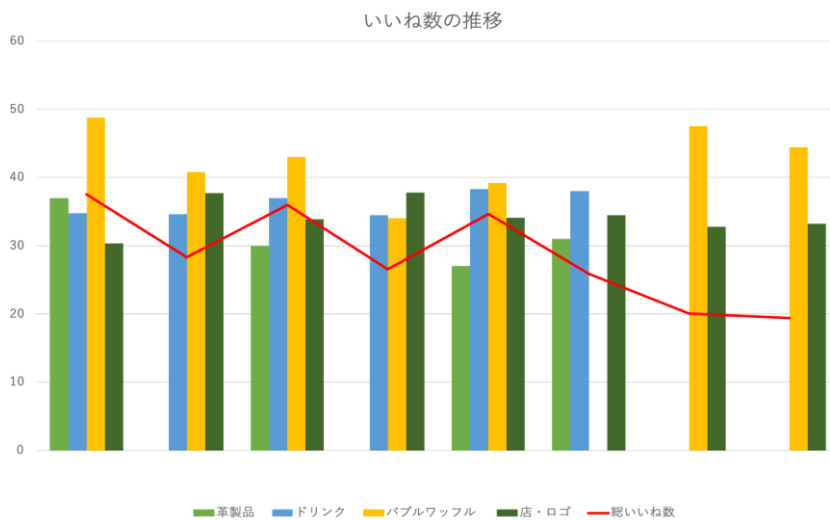
取材内容：カフェを選ぶ基準について、他

5. (提案内容)

提案内容について記述。

(1) チーム Lemon tea : カフェの公式インスタグラムを19日間運営

- ・写真の撮り方を工夫する。
- ・投稿がきれいにみえるように文面に統一性を持たせる。
- ・有名店の投稿を参考にして絵文字を増やす。



ポイント

- ・ フォロワーが、インスタの投稿を見ていない。
- ・ フォロワーの多くがビジネスアカウント。個人アカウントが少ない。
- ・ →発信力、拡散力のある人にみてもらう必要がある。

- ・ 投稿時間を配慮する。

以前のインスタ



path_t_e 『PATH TRAVEL & EATS』

人気の抹茶スペシャル♪
 イートインにテイクアウト♪
 お待ちしております。

世界のコロナ終息を1日でも早く

#path #travelandeats #yummy #柏エール飯 #ワッフル #
 柏 #柏カフェ #カフェテリア #outdoor #chiba #kashiwa
 #pathtravelandeats #食べて旅して感謝する #柏グルメ #
 秋 #食べ歩き #白玉 #インスタ映え
 #テイクアウト #cafe #path 柏 #ランチ #bubblewaffle
 #バブルワッフル #柏テイクアウト #柏バブルワッフル #抹茶
 #抹茶スイーツ #ワッフルクレープ

修正後のインスタ



path_t_e 『PATH TRAVEL & EATS』

千葉県産の幻霜ポーク🐷🍖をメインとしてレタス🥬、トマト🍅、ポテトサラダを中に入れ、お昼として食べられる一品です！かぶりついた途端、幻霜ポークのジューシーさとレタスとトマトの食感がクセになります！👍🌟ぜひ小腹が空いたら食べてみてください！😊👍🌈

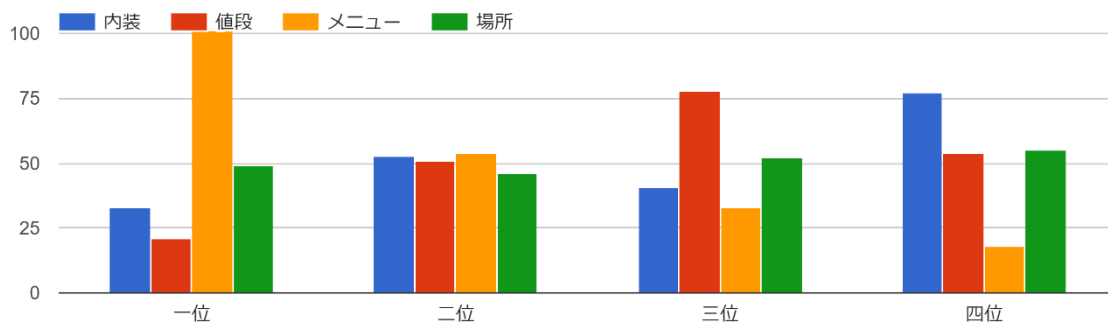
世界のコロナ終息を1日でも早く

●幻霜ポーク
 イートイン販売価格 935円
 テイクアウト販売価格 918円
 #柏テイクアウト #柏 #テイクアウト #柏グルメ #柏カフェ
 #柏エール飯 #ママ #ママ #ママ友 #ママ友会 #女子会 #甘味 #食べ歩き #スイーツ #カフェめぐり #カフェ #落ち着く #café #千葉 #千葉県 #pathtravelandeats #path 柏

(2) チーム しもしす

- ① アンケートの実施：カフェを選ぶ基準について、他
- ② メニューの見直し
- ③ 内装の見直し

何を基準にカフェを選びますか？



☆ メニューの見直し

ポイント

- メインであるワッフルに目が向くデザイン
- ワッフルとドリンクで分ける。季節商品は別刷り
- ドリンクメニューの削減。ワッフルを際立たせる。



☆ 商品の提供方法

ポイント

- お皿やコップを使う。
食べづらさの克服、インスタ映えを狙う。



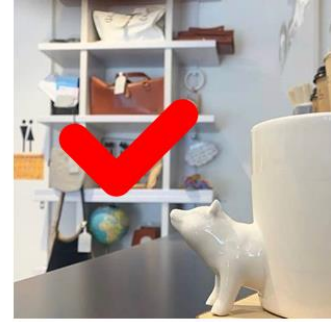
- 中高生をターゲットにする。
 - 手ごろな価格での提供。
 - 商品サイズの見直し



☆ 内装の変更

ポイント

- シンプルな内装が好まれる。(アンケート結果から)
- 革製品を撤去して、おしゃれなカフェを目指す。



(チェック部分は要変更)

6. (連携先からのフィードバック)

1月22日に開催した報告会には、飯島社長、竹原店長も出席。

飯島社長から、若者らしい、期待以上の成果を得たと評価。

竹原店長から、提案を考慮しながら、引き続き、社長と相談の上、工夫を重ねる。



7. 感想・まとめ

2つのチームが、それぞれの課題について、熱心に取り組む。成果について、依頼者である飯島社長、竹原店長から満足いく評価をいただく。

8. 成果物

成果報告会資料①



<https://drive.google.com/file/d/1Blr6kKgeXH3InrUPnNkQWGcc8wkGB5hi/view?usp=sharing>

成果報告会資料②



https://drive.google.com/file/d/1hqO_2ineGLZQp8o0UesAUCC7DIgkpx5O/view?usp=sharing

イオンモール柏を中心とした柏市の環境課題解決策 ～カシニワ制度に着目して～

企業名：イオンモール柏

担当教員 土田 尚弘（経済学部）

1. プロセス

日程	内容
11月12日(金)	第1回：キックオフミーティング@Zoom ・顔合わせ ・自己紹介
11月19日(金)	第2回：定期ミーティング@Zoom ・カシニワについての勉強会 ・カシニワについてのディスカッション
11月26日(金)	第3回：定期ミーティング@Zoom ・アイデア発想
12月3日(金)	第4回：定期ミーティング@BEE 棟 ・ヒアリングの内容決め
12月10日(金)	第5回：ヒアリング調査@イオンモール柏 ・イオンモール柏吉谷様にヒアリング ・実地調査
12月17日(金)	第6回：定期ミーティング@あすなる ・提案内容の方向決め①
1月7日(金)	第7回：定期ミーティング@Zoom ・提案内容の方向決め②
1月14日(金)	第8回：定期ミーティング@Zoom ・役割分担決定
1月21日(金)	第9回：定期ミーティング@Zoom ・まとめ①
1月25日(火)	第10回：定期ミーティング@Zoom ・まとめ②
1月27日(木)	第11回：プレゼン予行練習@Zoom
1月28日(金)	第12回：イオンモール柏吉谷様プレゼンテーション@Zoom
2月3日(木)	全体報告会

2. テーマの概要

カシニワ制度のカシニワとは、「かしわ(柏)の庭」と「かす(貸す)庭」を掛け合わせた造語であり、柏市行政の一環として、市内の余った土地を住民に貸し出す制度である。柏市行政がカシニワ情報サイトを運営しており、土地を貸し出したい所有者が情報を登録してサイトに情報を開示し、借りたい人がいたら柏市が仲介することになっている。

このカシニワ制度自体は、行政の制度であるが、イオンモール柏では、東葛地域の緑地の減少（千葉県で最も低い森林率、10年間で460haの農地や林が消滅など）や、空き家や荒れた林の増加の社会問題に対し、地域貢献として取り組もうとしている。その一環として、カシニワ制度を使った緑地化を目指し、その制度の利用の促進を考えている。

しかし、カシニワ制度は、実際には、まだ柏市民の間でも利用が留まっている。その問題として、カシニワ制度の認知が少ないことにある。このグループでは、イオンモール柏の地域貢献として、柏市民のカシニワ制度の利用促進を目指し、その一歩として、カシニワ制度の認知を広げる施策を提案することを目標として活動を行う。

3. ヒアリング調査

グループでのカシニワ制度のディスカッションをもとに、①それまで議論した内容についての確認点と不明点をまとめ、さらには②それまでに考えたアイデアの方向性について、12月10日（金）にイオンモール柏でヒアリングを行った。

ヒアリングの目的

基礎的な事項の確認をするため、また現状で考えた仮の提案について、絞り込みと、その後のブラッシュアップをするために、意見を伺う。

ヒアリングの内容

① 確認と不明点について

- イオンモール柏のカシニワ制度に対するビジョンについての再確認
- イオンモール柏で11月に開催したカシニワのイベントの盛況具合
- 今後、カシニワ制度に関して、考えていることについて
- イオンモール柏に来ている顧客層について

② 提案の方向性について

- 提案①：動画によるプロモーション
若年層をターゲットに・・・
 1. Youtuberなどのインフルエンサーを起用バージョンについて
 2. 麗澤大学生を起用バージョンについて
- 提案②：チラシによるプロモーションとイベント
中高年層をターゲットに・・・
 1. チラシを作成してスーパーのカゴの中に入れるバージョンについて
 2. チラシをイオンモール柏周辺の新聞などで配布するバージョンについて
 3. 電車の中吊り広告を電車に出稿するバージョンについて

ヒアリングでは、ビジョンについての再確認を行ったうえで、レクリエーション利用よりは緑地化が目的であることなどを理解した。また提案についての意見を聞いたうえで、提案内容の最終的な方向性を探り、その後のディスカッションで、メインのターゲットを中高年の女性に設定することにした。

4. 実地調査

インタビュー時に、イオンモール柏内のカシニワについて、実地で紹介をしてもらい、確認を行った。イベントで、実際に参加者に植物を植えてもらい、その後はボランティアで水やりを行っていることを教えてもらった。



図 1 イオンモール柏内のカシニワ

5. 提案内容

現状の課題の要点

カシニワ制度の認知度、関心を上げなければならない。そのためにイオンモール柏でカシニワ制度をわかりやすく伝える必要がある。

ターゲット

50～60代の女性

特にガーデニング好きだが、家でガーデニングをしたいが出来ない人など

このターゲットの理由として、当初、ポテンシャルがある層として、若年層も考えたが、イオンモール柏のカシニワ制度の花壇をみたところ、花を植えることが好きな人やガーデニングが趣味の人が最も適切と考えたため。

認知のための施策

(a) チラシの配布

理由としては、ターゲット層を中年層から高齢層に設定したときに、一番目にしやすい媒体であると考えられているからである。近年、柏市では高齢化が進んでいることから、インターネットなどを使用しない人にもカ

シニワを知ってもらえると考えられる。また回覧板や掲示板上に貼ることもできるため、紙の無駄遣い防止と
いった環境への配慮も可能である。チラシの配布方法としては、以下を考える。

- イオンモール柏内の電光掲示板や柱などに掲示する。
- イオンモール柏に専用スペースなどを設ける。
- 市内の町の掲示板、駅、商業施設などの人々が必ず利用する主要な箇所に設置する。

チラシの具体例として、次の2つを考えた。

カシニワ制度
~柏市の緑地活性化に向けて~

シニワとは、地域の庭と貸す庭を掛け合わせた造語のこと。
近郊にある空き地を地域の人々が手を加え、皆が使える庭にすることで柏
の緑を守っていくことが目的。
知を広げるため、カシニワ制度についての説明会を開催します！

日時 1月1日(月) 午前10時~11時
(参加無料・苗のプレゼントあり)

場所 イオンモール柏

リンク 柏市ホームページURL, QRコードを貼る

カシニワ制度申し込み方法

手順① 情報を登録する

手順② 実際に応募する

手順③ マッチング

手順④ カシニワ活動協定書を締結


イオンモール柏でカシニワ実施中！

具体的なサンプル例① (イベントがあると仮定した場合)

<項目>

1. インパクトのある見出しを付けて、人々の興味を引く。
2. カシニワ制度について簡潔に分かりやすく説明する。
3. イベント内容の日時、場所等を記載する。
4. 実際の申し込み手順や手続き方法を説明する。
5. 柏市のURLや一分程度でチラシの補足説明をする形での説明動画につながるリンクを貼る。
6. 実際にイオンモール柏さんで実施されているカシニワを利用した花壇についての写真を載せる。

図 2 チラシの例 1



カシニワ制度の紹介 (イオンモール柏)

カシニワ制度って何？
カシニワ制度とは柏の市と農手庭を掛け合わせた画題のこと。柏市がカシニワ情報サイトを運営している。
カシニワ制度を活用することで柏市の緑地活性化に貢献できます！花を植えることが好きな人、カーデニングが趣味の人、緑地活性化に貢献したい人はぜひカシニワに申し込みをお願いします！

活用方法・申し込み方法
土地所有者が情報を登録して、サイトに開示する方式。
借りたい人がいたら柏市が仲介をする。
所有者・活動団体・支援者が一体となって応募・マッチングする仕組み。
<申し込み手順>
①情報登録の応募②マッチング

カシニワ制度のメリット
柏市の空き地を有効活用できる！

イオンモール柏の取り組み
イオンモール柏では正面入り口前にカシニスペースを設けており、そこでプランターで花を植えている。この取り組みが柏市の緑地活性化の貢献につながっている。

具体的なサンプル例② (イベントがない場合)

- <項目>
- イベントが無い分、カシニワ制度についての説明を細かく説明する。活用方法、カシニワ制度のシステムについての説明と利用するメリットをアピールする。
- イオンモール柏でのカシニワ制度の取り組み内容や実施場所などを記載する。
- 地図を載せ、分かりやすくする。

図 3 チラシの例 2

(b) 動画の利用

ターゲットは中年層から高年層であり、インターネットを使った SNS での動画の普及は難しい。しかし、チラシでは情報量が少なくなってしまう。利用の手順など多くの情報をわかりやすく伝えるには動画がよく、動画を作成して、興味を持った人の中で具体的に内容や手順を知りたい人、また目につきやすい場所で流すなど、チラシの情報を補助するかたちで動画を次のようなかたちで利用する。

- QRコードとしてチラシに添付
- イオンモール内で再生
- 公式サイト・YouTube に掲載する

動画の次のようなもの考えた。



図 4 動画のスクリーンショット

6. 連携先からのフィードバック

イオンモール柏の問題意識と地域貢献を踏まえて、どのようにアプローチをすればよいかを考えていたところがよかった。また成果物であるチラシ・動画は、ターゲットに対してどのようにアプローチをすればよいか、現実的に具体的なイメージが付きやすかった。

今回は、イオン柏の地域貢献を一步として、カシニワ制度の認知ということを目的にしたが、相互の利益、すなわちイオンモール柏の利益にもつながるという視点で、何をすればよいかも引き続き考えてほしい。

7. 感想・まとめ

学生から学生ではなく、企業の方にプレゼンテーションするので、しっかり調べて、より理解してから伝えなければならないことが、今まではない経験で難しい部分があった。しかし自分でコンテンツを作って提案するなど、高校生までに経験がなかったような貴重な経験をすることができた。

各個人では、グループのプレゼンテーションが苦手であったが、それを経験する機会であったという声があった。またグループワークをする中で、他の人に任せた部分が多かったりしたと感じた部分もあったので、次回のこのような機会では自分がリーダーシップをとっていきたいという声もあった。達成感がある一方、各個人で様々な課題を認識することができて、今後自分が成長につながるよい機会になったと感じている。

8. 成果物

成果報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/17AVvMEhxiDo2e46o4ROXyhmWxj5WqMOq/view?usp=sharing>



麗澤・地域連携実習報告書

企業名：グランパークホテル ザ・ルクソー南柏

外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻

村田 遼一郎

清水 陽生

井村 朋花

山本 夕起乃

矢尾板 佳那

張凱 伶

大越 架音

曾我部 優希

鶴岡 美緑

ドイツ語・ドイツ文化専攻

鈴木 姫菜子

松澤 麗叶

国際学部国際学科

国際交流・国際協力専攻

江原 夏生

宮本 アリサ

柳田 颯希

経済学部経済学科

経済専攻

大竹 亜莉紗

佐藤 一慧

観光・地域創生専攻

運藤 楓太

柳澤 由芽

1. プロセス

日程	内容
11月9日	第1回グループワーク ・顔合わせ ・自己紹介
12月7日	第2回ミーティング ・ヒアリング、プレゼン、報告会のグループ分け
11月9日～1月18日 毎週火曜日（昼休み）	定期ミーティング
12月13日	ヒアリング調査 当日
1月25日	プレゼン 当日
2月3日	全体報告会

2. テーマの概要

南柏駅付近にあるグランパークホテル ザ・ルクソーの認知度向上の提案

3. ヒアリング調査

- ・私たち求められていること・利用するターゲットを確認することなどのマーケティング分析を実行するため
- ・ホテル側の課題・方針などの改善箇所の分析をするため

4. 実習での取り組み

- (1) 実際にランチを体験
低価格でビュッフェを利用可能 高いコストパフォーマンス
- (2) SNS 広告の事例を提案

5. 提案内容

- ・SNS 共有でクーポンを発行
- ・ディナーを提案
- ・ウェブ広告の活用方法

6. 連携先からのフィードバック

- ・スライド自体が見やすく、また文章が簡潔で見やすかった
- ・提案の内容が良かった。特に集客の 1 つとして私たち麗澤大生含んだ学生に利用して貰いやすいように、今後学割の導入や料金設定の見直しを検討して下さい
- ・宿泊の料金でコロナ前は 1 泊 9000 円～だったのに対し、現コロナ禍で 1 泊 5000 円～の価格になっている以上宿泊料金の変動は厳しい

7. 感想・まとめ

この活動をしていなかったら知ることが出来なかったことが多くあります。問題解決に向けてみんなで意見を出し合ったり、役割ごとのグループに分かれて活動したりと非常に貴重な経験をする事が出来ました。ここでは企業側の求めているものと学生視点での考えには大きく違いがあることを学びました。企業側のコンセプトに沿った学生ならではの考えを提案することは決して簡単なことではありませんでしたが、だからこそやりがいを感じることができました。今後、これらの経験を学校の授業だけでなく社会に出てからも活かしていきたいと思います。

8. 成果物

成果報告会資料

<https://drive.google.com/file/d/1ZzxSkyoC8fvZOOTMgEQFHRFEV8RI-wpc/view?usp=sharing>



三方よし×SDGs の廃校再生プロジェクト

担当部局：麗澤校友会

国際学部国際学科

国際交流・国際協力専攻

今城 一夏 ※ グループリーダー

神谷 真吾

橋本 朋樹

樋口 裕音

日本学・国際コミュニケーション専攻 安川 汐

高橋 夢海

外国語学部外国語学科

英語リベラルアーツ専攻

矢代 茶子

経済学部経済学科

観光・地域創生専攻

深井 祐希

経済学部経営学科

AI・ビジネス専攻

岡野 桃果

経営専攻

浅川 紗輝

関根 瑠璃

米元 未来

担当教員

黒須 里美（国際学部）

1. プロセス

日程	内容
2021年11月5日(金)	第1回ミーティング ・顔合わせ(一部メンバー) ・自己紹介
11月8日(月)	第2回ミーティング ・顔合わせ(全員参加) ・自己紹介
11月11日(木)	第3回ミーティング(オンライン) ・麗澤校友会の方にプロジェクトについての質疑応答
11月15日(月)	第4回ミーティング ・ブレインストーミング
11月22日(月)	第5回ミーティング ・現地訪問仮スケジュール共有 ・現地訪問役割分担決め
11月29日(月)	第6回ミーティング ・スケジュール共有 ・交通費について
12月1日(水)	第7回ミーティング ・現地訪問準備
12月6日(月)	第8回ミーティング ・スケジュール共有 ・現地訪問準備
12月20日(月)	第9回ミーティング ・報告会に向けたグループ分け
12月30日(木)	第10回ミーティング(オンライン) ・進捗状況報告
2022年1月17日(月)	第11回ミーティング ・進捗状況報告 ・報告会準備
1月18日(火)	教職員へのインタビュー①
1月20日(木)	第12回ミーティング(オンライン) ・進捗状況報告 ・予定、方針確認
1月21日(金)	教職員へのインタビュー②
1月24,31日(月) 2月3日(木)	活動報告会準備(1/31 オンライン) ・当日準備(オンライン) ・報告会

他、各グループ内でのミーティング複数回あり。

2. テーマの概要

旧広瀬小学校（淡海湖西生涯学習センター）は、明治19年（1886年）に創立し、2016年3月に廃校となった滋賀県高島市にある小学校である。麗澤校友会より、学生ならではの視点から活用をするアイデアを考えてほしいという課題を受け活動を開始した。事前のアイデア出しや、現地訪問での体験などを通して企画を考え、その実行に向けて活動していく。

3. 実習の取り組み

（1）現地訪問前ブレインストーミング

11月中のミーティングを利用し、高島市に関する予備調査や文部科学省の「みんなの廃校」プロジェクトを参考にメンバーのアイデアを出し合った。年齢層のターゲット、イベントの期間、コンセプト、広報の方法を含め、形式にとらわれないさまざまな意見が出た。これらの一部を紹介すると、地元の方と交流できる体験型アクション案（安曇川魚釣り体験、地元の特産品を使うカフェ・レストラン、近くの田んぼで収穫した米を使った米粉パン、校舎ペンキ塗り、お化け屋敷など）、三方よしアクション案（再生利用で体育館グッズ作成、植林活動、学生が育てた〇〇のブランド化、高島ブランド認定の無農薬栽培、高島市工芸品の紹介・体験の場など）、コンセプトのある宿泊施設・イベント会場案（グランピング、スポーツ合宿、天体観測、木の図書館、大人の文化祭、謎解きの場、大学のサテライトオフィス、英語教育の場、チョークアート、プロジェクトマッピングなど）である。これらは初期案として現地訪問(12/11-12)でのプレゼンテーションに生かされた。

<参考リンク>

高島市 HP（閲覧 2021 年 11 月）

<http://www.city.takashima.lg.jp/www/toppage/0000000000000/APM03000.html>

文部科学省 ～未来につなごう～「みんなの廃校」プロジェクト（閲覧 2021 年 11 月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm

文部科学省「廃校活用の現状と可能性」（閲覧 2021 年 11 月）

<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001385947.pdf>

（2）現地訪問

実施期間：2021年12月11日（土）～12日（日）

実施場所：高島市安曇川町下古賀 1182

実施目的：①土地を知ること・楽しむこと

②麗澤校友会の方々や現地の方々の本プロジェクトに対する期待や旧広瀬小学校に対する
思いを聞く

現地訪問スケジュール：<添付資料 A> 参照

現地訪問を通して、かつて響き渡っていた「子どもたちの声」を取り戻したいという現地の方々の思いを感じた。学校という規制が多い場所だからこそ、非日常を味わうことのできる空間、思い出の詰まった小学校

を活性化するなどの点から、パンフレット案、記念式典案、長期案という3つの提案を考案するに至った。

4. 提案内容

(1) パンフレット案

担当：深井、今城、浅川、安川、関根、矢代

①概要

私たちは自らが実際に旧広瀬小学校を訪れて感じた、高島市や旧広瀬小に対する感動を多くの人に伝えたいという思いで、パンフレットの作成を企画した。初めは、写真や周辺地図を用いることで、旧広瀬小や高島市を知ってもらえるパンフレットの作成を考えていた。しかし話し合いを進めていくうちに、伝えたい内容が増え、学生や子連れ世代などの細分化したターゲットに合わせてパンフレットを作成するという案が出た。そこで客観的なニーズを探るためのアンケート調査、また専門的な視点からのアドバイスを得るためのインタビュー調査を実施し、パンフレットの構想を練った。

②アンケート調査の実施<添付資料 B>

限られた実施期間と人数であったものの、中高大生を対象とした調査の結果から廃校に対しては「怖い」や「お化け」のようなマイナスなイメージを持つ人が多いが、宿泊施設として再利用することへのニーズは多くあることがわかった。また、その所以は自身の思い出にあり、多くの人にとって懐かしさを感じる施設を作ることがさらなるニーズの増加につながるのではないかと感じた。

廃校の強みは「懐かしさ」や「親しみやすさ」であると考えられる。また「廃校」という言葉からのイメージを払拭するためにも魅力的な活用法が求められる。

③インタビュー実施<添付資料 C>

新たな広瀬小の強みを探るべく、2名の麗澤教職員の方にインタビューを行った。2名とも現地に滞在され安曇川地域や旧広瀬小の施設をご存知の方である。その中でパンフレット作成の方法などについてもご教示頂いた。インタビューを行ったことで魅力的なパンフレットを作成できるか不安があったが、工夫次第で様々な作成の方法があると知ることができ、作成に向けた手順や考えるべき点など課題が明確化したように感じた。また、小学校にある施設に関してそれがどれほど貴重であるかというのを深く認識し、今まで以上に「今あるもの」を生かして、新たに個性あふれるものを創造していきたいと考えるようになった。

④課題

今後はインタビューやアンケート調査結果を生かし、より具体的に特徴あるパンフレットの原案について話し合う必要がある。現在は大学にある廣池千九郎像や旧広瀬小で栽培され始めたオリーブを活かしたパンフレットの作成を行うなど、私たちにしか作ることのできないパンフレットの作成を目指している。

(2) 記念式典案

担当：神谷、高橋、岡野

①概要

私たちは現地視察の際に来年度が広瀬小創立 135 周年だと知り、広瀬を盛り上げるには最適なチャンスだと考え、記念式典を計画し始めた。このようなイベントを行うことで、地域交流活性化を見込める高島市、思い出を振り返る卒業生、そして学生活動の宣伝ができる麗澤大学という「三方よし」に繋がることが望まれる。まず初めに、この式典の目的やターゲットを決めた。本イベントの主旨は卒業生の方々に広瀬小・高島市に想いを馳せてもらうことで、高島市関係人口の増加、地域交流活性化、認知度向上、広瀬小学校の活性化の 4 つを目的とした。目的達成のために集客に力を入れ、200 人以上集める（コロナ感染状況による）ことや、地域の方が若年層と触れ合う機会を作ること、活動を宣伝し、「滋賀高島」に注目してもらうことに目標を設定した。ターゲットは広瀬にお住まいの方々、旧広瀬小学校卒業生、若者（高校生→安曇川高校、麗澤瑞浪高校へ宣伝（実行委員招集）小学生・幼稚園生→高島市立の小学校・幼稚園）である。

②企画案

a) 式典

式典では広瀬小学校の思い出を振り返るために当時の動画や写真を流し、麗澤大学代表の挨拶や関係者の方のお話も頂きたいと考えている。

b) 運動会

式典の後は何を企画しようかと考えたときに真っ先に思い浮かんだのは、現地視察の際に見た幼稚園生の運動会であった。運動会は卒業生インタビューでも一番の思い出として上げられていて最適だと感じた。運動会は世代をこえてみんなで交流することができ、参加した子供の声で活気づくと考えた。ここでは玉入れ、リレーなどの一般的競技、当時の遊びの継承、安曇川特産品の出店などを企画している。

しかし冬期休業の間、独自性が見いだせず行き詰まっていた。そんな我々に転機が訪れたのは冬季休業明けの麗澤校友会の方へのインタビューであった。そこでいただいた「人をひきつけるインパクトのある物がいい」というアドバイスにより、非日常かつここでしか出来ないイベントにしようと方向転換をした。

c) プールペイント

麗澤校友会の方々へのインタビューの結果、今回のプールペイントというアイデアが生まれた。これは普段隠れている学校のプールの底を巨大キャンパスに見立てたイベントである。これならば広瀬の景観に影響することなく現代的な宣伝も可能にすることができると考えた。またこのイベントを周年記念品作成とすることで、卒業記念品が数多く残る旧広瀬小学校らしさも出せると考えた。

d) 夕涼み会

これは今回できた新たな関係を今後につなげていくための交流会の役割を担っている。ここでイベントは現地訪問時に行った花火が想像以上に盛り上がったため「花火し放題」なども一つの案となっている。

③課題

今後の課題としては、具体的予算からの内容の吟味、高島市とのコンタクト、旧広瀬小学校の歴史の収集、宣伝方法の模索、コロナの感染状況に応じて柔軟に対応すべく、他複数案の同時進行、来場者の宿泊の検討などである。これらの課題を解決しつつ半年後に開催するために、計画性をもって行動していく必要がある。

(3) 長期案

担当：米元、橋本、樋口

①概要

目的は旧広瀬小、高島市の活性化である。企画のコンセプトは「かいほうてきな場所をつくること。」ここでは解放的と開放的の二つの意味を指している。このコンセプトの理由としては、規則が多い学校だからこそ、非日常を味わえるような空間を提供できる場所にしたいと考えたためである。利用者のターゲットとしてはモロロジー・道德教育財団、麗澤中高大学、麗澤瑞浪高等学校の関係者、高島市の地域・地元の方たちを考えている。

②企画

私たちは視察を通して多くのアイデアから企画を考えた。数あるアイデアの中からより実現可能なものを選び、a.廃校のオルタナティブな使い方、b.安曇川周辺の自然体験、c.高島市×麗澤学生ブランドの三つまで絞った。この三つを三本柱として実行まで移せるよう、これからも取り組んでいく。

a)廃校のオルタナティブな使い方

廃校を宿泊施設ベースに考え、ゲストハウス、グランピング、カフェ、プチ水族館、工芸品を使ったプチ美術館等の複合施設としても複合的に廃校を生かすことができるかたちで作っていく予定である。現在はカフェの企画を作っており、「英語教育×カフェ」と題して、麗澤大学の英語教育の良さを伝えると共に、英会話のワークショップの開催、英語表記メニュー、など英語に触れる機会の提供を考えている。

b)安曇川周辺の自然体験

旧広瀬小学校付近には、清流の安曇川が流れており、訪れた人は、安曇川はもちろんのこと、周辺の自然にも触れることができる。これを活かし、自然に触れる体験として、竹細工、まき割り、釣り、収穫体験、プチ農業体験などを考えている。

c)高島市×麗澤学生ブランド

私たちは現地視察の際に、琵琶湖付近の中江藤樹記念館を訪れた。本プロジェクトでは三方よし×SDGs を掲げており、本学のモロロジー教育とも関係が深く、道德教育のブースの設営も考えている。さらに、本学の学生が育てる野菜などを学生ブランドとして、現在、高島市が推進しているオリーブ栽培につなげた「藤樹オリーブ」や「三方よしみかん」などの企画を検討している。特に無農薬化学肥料不使用のオーガニック食材には高島市からのブランド認定を頂くことができるため、学生ブランドとしての実現が可能だと考えている。

③課題

施設内に食事を提供できる施設がないため、提供方法について考える必要がある。また、麗澤大学のキャンパスと旧広瀬小学校とに距離があるため麗澤大学生との関係性の構築について考えていく必要があると思われる。

5. 麗澤校友会からのフィードバック

(1) 麗澤校友会からの総評

高島広瀬小学校跡地利用について、元々はモロロジー道徳教育財団の「モラルと道徳で人と社会を幸せにしよう」と「淡海湖西生涯学習センター」（センター）が立ち上げられたところに、若い層や家族層にも広く呼びかけるという視点で本地域連携実習の課題提供に至った。全国では少子化に伴う児童生徒数の減少等により、毎年約 470 校程度の廃校施設が生じている。広瀬はそのような廃校の一つであるが、学生の皆さんの現地視察やその後の企画提案から、若者の地域の環境づくりへの取り組み、麗澤教育を根幹とした展開に大きな可能性を感じた。若い皆さんが関わることによって学校は再び活気付き、現地の方は喜び、それによって地域が活性する。地域連携授業終了後、より具体的な計画や評価方法なども検討しつつ、実質的な活動につなげていくことをめざしてほしい。今回 3 つの提案（パンフレット、135 周年、英語教育 × カフェ）を中心にいただいたが、これらの多くは実現可能ではないか。予算をどう確保していくかという課題は残るが、学生視点のパンフレット作成はセンターの期待するところであるし、135 周年企画も準備期間は短いが取り組む価値がある。英語教育 × カフェという発想はとても麗澤らしい。また英語教育は高島市も力を入れている。国際社会において好ましい提案ではないか。学生の皆さんに現地や市との調整の際に協力いただくことも良案である。

(2) その他いただいた感想・アドバイスなど

a) インタビュー時のコメント

聴く力がすばらしい。誰も旧広瀬小活用法の「答え」はわからないが、皆さんのように「なぜ」「どうして」と問い続けることが、一番の近道かと思う。

b) 最終報告後のコメント

- ・ 現地視察の成果が提案によく活かされていた。
- ・ 可能性、勢い、発想に限界ない、とらわれない、大いに元気をいただいた。これが次世代の力強い意志と感じた。
- ・ 広瀬小学校チームの発表は取材力も構成力もそしてなにより愛情を感じた。提案のまま少し手を入れれば（予算面の配慮など）すぐに市役所に持ち込めるレベルではないか。高島市と一緒に持ち込み協議できる心のこもった提案書レベルである。やりたいことが明確で、現状を変える若いパワーがある。
- ・ 「より身近な廃校、廃校の危機」をもつ柏市でも今回の成果を生かしていけるのではないか。
- ・ 短時間であるアウトプットを出すのは大変だったと思うが、よくまとまっていて、次へとつながる内容に仕上がっていた。学生の皆さんの思いにあふれたスライドと発表で嬉しくなった。
- ・ ひとつひとつの写真や現地視察したからこそその発表者の自信と力強い言葉、とても気持ちが伝わってきて感動した。
- ・ 今回の提案とこのチームを大切に、正に、「SDGs×三方よし」で、最善を目指そう。

6. 感想・まとめ

様々な専攻の学生が集まり、新鮮な環境で活動ができた。活動開始後、間もなくして現地訪問の実施が決定し、少ない時間の中でスケジュールの計画やアイデア出しを行った。1泊2日という短い時間ではあったが、実際に自分の目で見て、聞いて、感じて、楽しむという体験をすることでメンバー同士の仲が深まったことを初め、具体的に活用方法をイメージし、たくさんの人の温かさや想いの詰まった環境であることを知ったことでより良いアイデアを提案できたと思う。本プロジェクトは、自分たち以外の人が多く関わっているものであり、さらに期待の目も少なからずあることを感じていた。限られた時間でそれぞれ個々の活動もある中で、自分の行動により責任を持ちながら進めていくことに不安もあったが、たくさんの人が自然とサポートしてくれたことやそれまでの活動を通して、人と人の繋がりの大切さに改めて気が付いた。活動報告を終え、教職員の方々や現地訪問でお世話になった方だけでなく、他のプロジェクトに携わった学生からも嬉しい言葉を頂くことができた。これからプロジェクト実施に向けて活動をしていくことができることを嬉しく思うと同時に、このような素晴らしい環境の中で活動できることに感謝し、自分たちの力を全力で発揮しながらより多くの学生が成長できる場になることを思い、期待が膨らむ。現地訪問、アンケート・インタビュー調査、全体を通してのサポートやアドバイスなど、たくさんの方々にご協力いただいた。また資金面でのご協力もしていただき、学生だけでは実現できないような活動ができたことに感謝の気持ちでいっぱいである。活動を支援する声・応援する声も多く頂いているため SNS <添付資料 D> 等で、活動の経過を目に見えるような形にしていき、今後も支持して頂けるような活動を学生一同行っていけるように邁進していきたい。

7. 支援をいただいた方々・助成金

- ・麗澤校友会の皆さま
- ・安曇川地区の皆さま
- ・淡海湖西生涯学習センターの皆さま
- ・Swirl International Pre-School の皆さま
- ・2年生のサポートメンバーの皆さま
- ・アンケート予備調査にお答えいただいた皆さま
- ・インタビューにご協力いただいた皆さま
- ・麗澤・地域連携実習調査補助
- ・PBL チャレンジ奨励制度
- ・麗澤大学麗澤会

8. 添付資料

<資料 A 現地訪問スケジュール>

淡海湖西生涯学習センター 旧広瀬小学校 2021/12/11 (土) ~12 日 (日)

〒520-1202 滋賀県高島市安曇川下古賀 1182 (TEL 0740-20-9033 FAX 0740-20-9034)

日時	地域連携実習生	場所	備考
2021/12/11(土)			
10:30 頃			先発隊到着
12:00	学生到着 昼食 (学生ランチ持参、校友会は弁当) 到着 次第自由に センター職員ご紹介：事務連絡・注意事項 宿泊室確認・荷物置き	食堂 1F 音楽室 2F 宿泊室	バス (安曇川駅 11:40 発 朽木線旧広瀬小 学校前 11:55 着) 部屋割り、シーツ (リネン室) ・ゴミ袋など準備 (時間のある時に)
13:00	セッション 1 (ファンリ 黒須) 「三方よし × SDGs の廃校再生プロジェクト」麗澤校友会会長ご挨拶 & メンバー自己紹介 学生プレゼン (地域交流班)	研修室(2F)	スクリーン・プロジェクター準備 ノートパソコン持ち込み
14:00	校内・校庭ツアー 校内・校庭活用体験 (レク班)	校舎内外	麗澤校友会：校内案内、買い出し
16:30	セッション 2 (パネル形式) 「地元の方々と交流」 (ファンリ しんご・ゆう・ゆうあ)	研修室	地元の皆さまと合流
17:30	夕食	食堂	
19:00	懇親会～花火 & (レク班) 1 日目の振り返り シャワー利用 4 室 (女性) 宿直室お風呂・シャワー (男性)	食堂・ 校舎内外	飲食は食堂で！ *シャワーの時間と順番確認！
23:00	消灯		

2021/12/12(日)			
	起床 (自由)周辺散策 (7:00 愛宕神社散策) 朝食 7:00 から各自で * 部屋の片付け、ゴミ処理、荷物を持って 研修室集合	食堂	朝食事前申し込み (多めに用意する予定) : 電気ポット使用 お茶・紅茶・コーヒー・スープ等あり
8:30	セッション 3 (ファシリ きら)「麗澤校友会メンバーに聴く」(ラウンドテーブル形式) 校友会 x 学生 3 グループ (1ラウンド 20 分 x3) G1 (ゆき、いちか、みく、ゆう、じん) G2 (さき、はっしー、ももか、ゆうあ、かすみ) G3 (ゆうと、しんご、るり、ちゃこ、すずか)	研修室	9:30-10:00 (Swirl international pre-school 園児 20 名大人 24 名) 大型バスで到着
10:00 10:30	セッション 4 「Kids と交流」 Swirl 開会式～集合写真まで全員参加 A 班 キッズ&父兄と活動 ・飯盒炊爨(しんご、すずか) ・カレー作り(ゆき、かすみ、じん) ・クラフト(クリスマスリース)作り (ちゃこ、さき、ゆう、ゆうあ) B 班 周辺散策 ・いちか、ももか、るり ・みく、はっしー、きら	グラウンド	Swirl Global Preschool 一日遠足と合流 http://swirl-global.com/ * 学生代表挨拶 (いちか)
12:00	キッズ&皆でカレーランチ	食堂	段取りは Swirl 13:00「大学生お見送り」 午後キッズは体育館でスポーツ
13:30→バス	セッション 5 (ファシリ いちか) 「振り返り会」*	研修室	* 観光ルートの時間確保のためバス内および Google Classroom に変更
14:00	センター出発、高島市・琵琶湖周辺見学	バス	観光コース参加学生 16 名+校友会 4 名 ルート「中江藤樹記念館→琵琶湖の北湖の湖岸道路→長浜市内湖岸道路より米原」* 途中道の駅 (土産購入チャンス) *注 湖北の天気は気まぐれ!
17:30	米原駅～東京駅～最寄り駅		米原駅発 17:57 (ひかり 662 号) →東京 駅着 20:12 * 帰宅後到着時にグループラインで連絡 (帰宅・名前のみで OK 安否確認のため)

<資料 B アンケート調査>

目的：・廃校に対して学生が抱く印象を探る

・学生のニーズを探る

対象：中高大生（36人）

期間：2022年1月8日（土）～1月9日（日）

方法：Google フォーム

内容：・性別

・年齢

・学校を宿泊施設として利用することに対する印象

・廃校に対する印象

・小学校の思い出 等

Q1 宿泊できる学校があれば利用したいか

はい 80.6% いいえ 19.4%

Q2 なぜ学校に宿泊したいと思うか。

- ・ 学生の頃を思い出せそうで、友達と泊まったら楽しそう！
- ・ 普通に宿泊するホテルじゃ旅館では出来ないようなことができそう
- ・ 小学校にお泊まりというのはとても夢のあることだから
- ・ 懐かしい、エモいから、学生時代の友達と行ったら思い出蘇る！絶対楽しい！
- ・ 懐かしい気持ちになって新鮮だからです
- ・ 普段では体験できないことだから
- ・ 大人になってもそういう楽しみができたらいいなと思ったから 等

Q3 廃校に対してどのような印象を持っているか。

- ・ お化け
- ・ 怖い
- ・ 田舎そう
- ・ 不気味 等

<資料 C 教職員の方々インタビュー調査>

Aさん 2022年1月18日（火）実施

Q1 パンフレット作成時にどのようなソフトやアプリを利用しているか。

パンフレット作成用などの専用のソフトは多くあるが、専用のソフトは高価で使いこなすために勉強する必要があるため、自身の使い慣れているパワーポイントで作成をしている。ワードやパワーポイントにはそれぞれ特性がある。

ソフトの特性や長所

・パワーポイント

長所：見せるためのソフトであるため、1ページで完結している

短所：1 ページで完結しているため、ページをまたいで文章を書く際に手動で修正する必要がある。

・ワード

長所：長文を読ませるためのソフトであるため、複数のページに渡って続けて文章を書くことができる。

短所：画像などを載せると文章の編集に合わせて勝手に画像の場所などが移動してしまう。

Q2 人の目を惹くパンフレットを作るために注意していることはなにか。

段階を踏んでパンフレットを作成するように意識している。

・どういう目的でパンフレットを作るのか。

・見た人からどのようなアクションを求めているのか。

などと逆算して、目的に沿うようなパンフレットを作成している。

Q3 連想する広瀬小のコンセプトは何か。

小学校というのは教育の施設であるため、広瀬小のキーワードに「教育」があると考える。

コンセプト、企画を考える際には以下の3点が重要である。

・強み（自己分析かつ理解）

・競合は誰か（市場分析）

・なにを求められているか（市場理解）

広瀬小の強みとして「不便さ」があると考えている。不便であればあるほど、自分ひとりですべてをこなせなくなる。不便な中で、人と協力してこなしたことやトラブルは無形の財産になる。体験も教育である。また、これを売りにした場合、これに価値を見出した人がお金を払う。「どんなひとが価値を感じ、どんな人に届けたいか。」という点に関しても考える必要がある。

Bさん 2022年1月21日（金）実施

Q1 現状として、広瀬小学校を使用したいと思うか。

麗澤の場合、谷川セミナーハウス（群馬県）にすでに温泉や宿泊できる施設があるのでゼミなどで使用する可能性は低いですが、関西周辺の他大学の学生であればニーズがあるのではないかと。

Q2 旧広瀬小を活用するアイデアはなにかあるか。

実際に足を運んでもらうにはそこにしかない「ならでは」が必要である。「ならでは」は人々が訪れる理由になり、今あるものだけでなく新たに創造したものでよい。

Q3 よかったと思ったところ。

現状ある体育館や家庭科室などの施設がもうすでに備わっているところは少なく、新たに建設しようとすると莫大な予算がかかる。そんな施設を生かすことができればいいのではないかと。また、滋賀県ならではの琵琶湖を活用できるとよいのではないかと。

<資料 D 廃校再生プロジェクト 学生運営 Instagram アカウント>



https://www.instagram.com/haikou_hirose/

9. 成果物

成果報告会資料

https://drive.google.com/file/d/1mZTDJl_FvwmW5D00IOVJ0xBV7XKuNh6N/view?usp=sharing

